

# 「まちのプロデューサー」悼む

## 元同僚らFMとよみで番組

### 故・宜保喜久さん



故宜保喜久さん

【豊見城】豊見城市の歴史文化の掘り起こしや各種イベントの立ち上げに尽力し、6月19日に亡

くなった故・宜保喜久さん（享年71歳）の追悼番組が6日、豊見城市の「FMとよみ」で放送され、元同僚や共にイベント運営をした仲間らがゲスト出演し、宜保さんをしのんだ。

宜保さんは琉球新報社の記者を5年間務め、その後豊見城市職員として子ども会の立ち上げやイベントの企画運営などを

実施。退職後は龍船協会事務局で豊見城ハーリーの運営に携わり、直近では25、26の両日開催予定の「豊崎フェスタ2009」の準備に奔走。FMとよみでは08年から「豊見城歴史探訪」という番組のパーソナリティーとして、豊見城の歴史や文化を紹介していた。

番組には金城豊明豊見城市長のほか、職場の同僚として前琉球新報社社長長の比嘉辰博さん(69)、

同市役所元職員の座安正勝さん(60)、龍船協会事務局次長の赤嶺秀義さん(58)、大学時代の後輩の金城健一さん(64)、宜保さんの次女名嘉山奈美さん(38)が参加した。

比嘉さんは経済担当の記者としての仕事を「農協や製糖工場などを回り足で稼ぐ記者だった」。金城さんは宜保さんが学生會館（千葉市）の寮歌を作詞したことなどを紹介した。

座安さんは、宜保さんが子どもの健全育成に力を入れた子ども会の設立とエイサーの普及に尽力したといい、「文化によるまちづくりのプロデューサーだった」と振り返った。赤嶺さんは「地域の次の世代に何ができるのかを考へ行動していた」と涙をにじませた。金城市長は中央図書館の開館など市の文化的発展に尽力した、として「彼が残したものは大きい」と評価した。



宜保喜久さんの追悼番組に出演した元同僚ら—豊見城市のFMとよみ